

浅草寺病院だより

2026 年
【新年号】

2026 年 1 月 26 日発行
社会福祉法人浅草寺病院
東京都台東区浅草 2-30-17
☎ 03-3841-3330

理念

観音さまの大慈悲のみこころにそって、
思いやりの精神のもとにあたためた医療を提供します。



新年を迎えて

病院長 黒田 忠英

新年あけましておめでとうございます。令和8年(2026年)新しい年を迎えました。

今年のお正月も浅草寺の境内は多くの初詣参拝者で大変賑わっておりました。国内外から多くの参拝者が訪れ、新年の始まりを祝い、初詣を楽しむ人々の熱気であふれておりました。インドをはじめ、東南アジア、南米、ヨーロッパ、アラブ諸国など、多くの国々や地域の方が集い、笑顔で参拝、観光される姿がみられました。天候は昨年末から急に寒さが増し、1月2日には一時雪も舞ったものの、お正月は比較的天候にも恵まれ、気持ちの良い1年の始まりを実感することができました。

今年は午年で、十干十二支では丙午(ひのえうま)の年になります。午は古来より、力強く前進する象徴であり、物事が活発に動き、成長と発展が期待される年とされています。丙午も火の力が重なる干支といわれ、火の力が重なることで情熱や勢いが高まり、太陽のようにエネルギーが満ち溢れる年と言われています。

しかし、医療の現場、そして社会全体としても、現在は非常に大きな変化の中にあります。昨年の医療現場は今までになく非常に厳しい年でありました。長きにわたり続いてきた医療費の増大に対する診療報酬の削減、これら国の政策のもと高次医療機関から中小の医療機関に至るまで、医療現場は非常に厳しい状況が続いており、地域医療そのものが危機に瀕している状況となっています。昨年の巳年は日経平均株価が5万円を超え、円安、日銀の利上げなど30年間停滞してきたデフレからの脱却とともに、物価が上昇し、社会経済としても大きな変換点を迎えました。しかし、近年の医療環境は、少子高齢化の進行とともに、医療人材の不足、医療技術の高度化が進行するにつれ、医療機器や医薬品なども高額になってきております。そして感染症対策や災害への備えなど、複雑かつ多様な課題に直面しております。

日本は国民皆保険制度という素晴らしい制度があり、1961年の制度実現以来、誰もが必要な医療を公平に受けられる社会基盤として機能してきました。年齢や所得、居住地にかかわらず一定水準の医療アクセスを保障するこの制度は、日本の高い健康水準と長寿社会を支える根幹となってきたのだと思います。

2026年を迎える日本の医療現場は、これまでの成功体験だけでは乗り越えられない大きな転換点に立たされているのだと思います。国民の5人に1人が75歳以上の後期高齢者になる現代において、当然、慢性疾患を含めた様々な疾患を持つ人々も多くなります。これは高齢者だけの問題ではなく、病気は年代に関わらず、高齢者以外でもいつ何時、医療が必要になるかわかりません。また、医療が高度化し、治る病も多くなる一方で医療機器、医薬品など医療資源の高度化、高額化は進み、これからもさらに進化していくと思います。IT、AIなど今後の技術の進化とともに、医療費は今後もますます増加していくでしょう。どのように考えても、医療の進化、社会の進歩とともに、医療費は当然これからも増大していくはずです。これに対して、医療費削減、診療報酬の削減では、当然医療機関の疲弊や、地域医療の崩壊を招くこととなります。日本の高齢化は世界に類を見ないスピードであり、これは国民皆保険制度や医療技術の進歩など、世界に誇るべき制度や技術の賜物であると思います。この状況下で単に医療費の削減や診療報酬の削減といった縮小的な政策ではなく、今後さらに日本は発展し、元気になる制度への変換が必要ではないかと考えます。

今年はまさに医療の将来像が問われる年であり、国の医療政策としても、地域医療に携わる私たちにとっても、新たな飛躍と変革、前進の年となることを願っております。皆様にとって、良い年になりますように、また初詣に世界各国から多くの方々がいらっしやっているように世界の人々が笑顔で集える良い年になりますように祈っております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



臨床検査技師ってどういう職業？

検査科

臨床検査とは健康診断や病気の診断、治療、経過を観察するための検査をいいます。臨床検査技師は、病院、クリニック、健診センター、検査センターや医療系企業などで働くさまざまな臨床検査を行う技術者です。

臨床検査技師になるには、臨床検査技師等に関する法律によって定められた国家資格を取得しなければなりません。高等学校を卒業後、臨床検査に関わる4年制の大学、3年制の短期大学や専門学校で検査の養成課程を修めて、国家試験を受験し合格することが必要です。

臨床検査技師の業務は大きく『**検体検査**』と『**生理機能検査**』に分けられます。

検体検査

検体検査は、血液を用いた血液検査(貧血・血液の病気(白血病等)の検査など)、生化学検査(肝機能・腎機能・血糖検査など)、輸血検査(血液型など)、尿を用いた尿検査(尿成分の分析など)、体から採取した組織を用いて標本作製・検査する病理検査、病原微生物の培養同定などを行う微生物検査など多岐にわたります。また、医療機関によって、検体検査に用いる血液の採血を臨床検査技師がおこなうこともあります。



生理機能検査

生理機能検査は患者さんの身体に検査機器を取り付けて直接検査情報を得る、心電図検査・ホルター心電図検査・呼吸機能検査・超音波検査などがあります。

代表的な心電図検査では、手足と胸部に電極をつけ、心臓が動く時に生じる電気的な活動を記録します。



検査前の食事の可否や生理機能検査を受ける時の服装などの注意事項はスタッフにご確認ください。検査を受ける時、疑問や不安などありましたら、お気軽にお声掛けください。

一般病棟、地域包括ケア病棟とは

一般病棟看護師

新春を、迎え、寒さが厳しい折ではございますが、皆様におかれましてはお健やかに過ごしのことと存じます。

私たちが勤務する一般病棟は急性期病床と地域包括ケア病床があります。急性期病床は体調を崩された方や手術をされる方が主となり、治療のためのお部屋となります。今まで住み慣れた自宅や施設からいきなり環境が変わり、とまどいを持つ患者さんが多くいらっしゃいます。その中で看護師は安全に治療が行われるよう、安心できる声掛けや場所や時間がわかるよう工夫しております。その後、治療が終了しても自宅や施設への復帰が難しい方が地域包括ケア病棟へと転床します。ソーシャルワーカーや理学療法士、医師を含め相談しあい、カンファレンスを行い、在宅や施設復帰に向け日々患者さんのケアを提供しています。

そのためには入院前の生活状況の聞き取りを行い、入院中の日常生活動作の低下がないよう今後もスタッフ一丸となり皆様安心して過ごせる環境づくりに力を入れて参りたいと思います。

